

平成 30 年日本熱物性学会第 2 回 (2018-2) 役員会議事録

日時：平成 30 年 4 月 21 日(土) 役員会 14：00～15：20

場所：東京工業大学田町キャンパス キャンパスイノベーションセンター2階 多目的室 1

出席者：(五十音順・敬称略)

上利泰幸(大阪産業技術研究所)

遠藤理恵(東京工大)

大久保英敏(玉川大)

岡部孝裕(弘前大)

小原拓(東北大)

川南剛(明治大)

長坂雄次(慶應義塾大)

長野方星(名古屋大)

高野孝義(豊田工大)

東之弘(九州大)

宮崎康次(九州工大)

宮本泰行(富山県立大)

室町実大(産総研)

元祐昌廣(東京理科大)

桃木悟(長崎大)

森川淳子(東京工大)

山下雄一郎(産総研)

山田修史(産総研)

山田純(芝浦工大)

山田盛二(サンタバーキングラボ)

渡邊純一(パナソニック)

審議事項：

上利会長より挨拶があり、前回の役員会を欠席した理事・評議員より挨拶があった。

議 題:前回議事録確認……………資料番号:18-2-1

上利会長より、資料 18-2-1 に基づき前回議事録の確認があり、了承された。

(1) 覚書の確認……………資料番号:18-2-2

森川副会長より、資料 18-2-2 に基づき覚書の確認・修正の提案があり、了承された。

< 2 >事務局の 4. 学会事務局が担当する業務を修正した。

< 2 >事務局の 4.学会事務局が担当する業務に、「4）・学会誌の編集に関わるサポート業務」「5)海外会員への会費請求」を追加する。

< 2 >事務局の 6. 合同会社鷗友に委託する業務を削除の上、5. 特定非営利活動法人日本熱科学研究支援機構に委託する業務を追加した。

< 3 > 2. 4)「会員情報担当」の“日本学会事務センターの倒産に伴い、しばらくの間、”は削除する.. また、5) 40周年記念事業担当を追記した。

< 4 >熱物性シンポジウムの 1 3. 中の”CD”は”CD 等”に変更する。

< 6 >日本学術会議との関係の 1. ”日本学術会議会員候補者の情報提供”を削除する。それに替えて「本会は日本学術会議の協力学術団体である。」と記述する。“協力学術団体”は長坂表彰委員会委員長にお調べいただいた。1) は削除する。

< 7 >財政的基盤 2. (4) の中で、なくなったデータ集・講習会教材等は削除する。さーもふいじしすとは在庫なしのため、削除する。30周年記念論文はまだ在庫がある。

改正の日付は9月1日とする。

(2) 第39回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料番号:18-2-3

長野方星第39回シンポジウム実行委員長より、資料番号18-2-3に基づいて、第2回会告が提示され、準備状況および予算案について以下の通り報告があった。

- ・ 会場は予定通り名古屋市の愛知県産業労働センターウインクあいちであり、日時は11/13～11/15で決定した。
- ・ 総会、特別講演の場所はウインクあいち・キャッスルプラザの予約ができなかったため、貸会議室（オフィスパーク名駅プレミアホール&会議室403）を利用する。ウインクあいちとキャッスルプラザの近く（いずれも徒歩1分）である。
- ・ 1日目：講演会（ウインクあいち）、2日目：講演会（ウインクあいち）～特別講演・総会（貸会議室）～懇親会（キャッスルプラザ）、3日目：講演会（ウインクあいち）と利用を予定している。
- ・ オーガナイザには学会への入会のお願いをする。
- ・ ジョイントセッションは2日目を予定している。担当は宮崎理事である。
- ・ JST-CREST のナノスケールの熱制御(熱輸送のスペクトル学的理解と機能的制御-研究総括: 花村克悟教授(東京工大))はOS3に組み入れて講演してもらう。
- ・ 講演者は、前回の理事会・役員会のアンケートに基づいて濱田様(トヨタ自動車)と森島様(名古屋大学)に決定した。講演題目は4月中に決定する予定である。
- ・ 学生ベストプレゼンテーション賞の事前参加申込期限の変更と重複受賞の制限についての追記が示された。
- ・ 新規性の喪失(WEB公開)は、開催の3週間前に設定したが、2週間前(10月30日)に変更する。
- ・ 参加費、懇親会費は昨年と同じ
- ・ 普通(当座ではない)貯金口座で、振替用紙の利用ができるのかの確認が必要である。
- ・ 第39回シンポジウムの収支予算案では、会場費が昨年度よりも多いが、学会への返金も予定されている。懇親会費の支出が多くなりそうな予定である。

(3) 第40回日本熱物性シンポジウムについて……………資料番号:18-2-4

桃木理事・第40回シンポジウム担当の代理として上利会長より、資料番号18-2-4に基づいて、準備状況についての報告があった。開催会場として、長崎ブリックホールを確定し、仮予約をしている。日程は2019年10月28日～30日に確定した。ATPC、熱工学カンファレンスとは重複しないことが示された。熱工学カンファレンス燃焼工学会と重複しないことを確認する必要がある。

後ほど、桃木理事より次の説明があった。実行委員には、九州地区の大学の先生にお願いしていく。国際会議場は大きな会場なので、40周年記念事業と一緒に利用できないかを検討している。この場所を借りることによって、ラウンジも使用できる。シンポジウムのWEBシステムは第39回と共同して運用していく予定である。

(4) 40周年記念事業について……………資料番号:18-2-5

宮崎創立40周年記念事業担当より、資料番号18-2-5に基づいて、準備状況について以下の通り報告が

あった。創立 50 周年が盛大に行うことが予想されるため、それにつながる記念事業としたい。

- ・ 30～40 年の 10 年間の軌跡を調べ、論文誌の PDF 化を行い、記念誌を発行する。
- ・ 若い評議員への執筆依頼があった。

(5) 各種委員会報告……………資料番号:18-2-6-1～4

編集委員会

大久保理事・編集担当より、資料 18-2-6-1 および 18-2 別添に基づいて報告があった。2018 年 5 月号 (Vol. 32, No. 2 (2018)) の目次案が示され、巻頭言については東之弘先生 (九州大) に依頼し、論文 3 編、掲載予定であることが説明された。また、今後は分科会終了時に特集記事を依頼予定である。

活動委員会

桃木理事の代理として上利会長より、資料 18-2-6-2 に基づいて活動報告があった。次回熱物性シンポジウムにおいても学生会員を対象とした学生ベストプレゼンテーション賞 (BPA) の表彰を行うこととなった。また、BPA 対象者は学生会員である事が条件であるため、シンポジウム HP でアナウンスすると共に、講演受付システムにおいても、申し込み前に入会へ誘導することを、実行委員会に依頼する旨の説明があった。重複受賞のないようにすることが説明された。副賞の「サーモふいじしすト」がなくなったため、それに代わる商品を検討したいと考えていることが説明された。副賞候補として 30 周年の DVD が示された。

後ほど、桃木理事より、同様の説明があった。

広報委員会

元祐理事より、資料 18-2-6-3 に基づいて、引継ぎ状況、HP の整備およびメーリングリストの運用についての報告があった。会員増強に関する活動を行っていくとの抱負が述べられた。例えば、シンポジウム参加者 (非会員) に対する勧誘等を行う。学会とシンポジウムで共同して勧誘する。また、評議員には HP フロントページへの研究室紹介をしていただく可能性がある。

表彰委員会

長坂表彰委員会委員長より、資料 18-2-6-4 に基づいて報告があった。学会賞の選考基準についての修正案が提示され、了承された。本日 (2018 年 4 月 21 日) 付けで改正を行う。

(6) 研究分科会報告……………資料番号:18-2-7-1～4

高温融体物性と材料プロセス

代理として遠藤評議員より、資料 18-2-7-1 に基づいて、活動計画について報告があった。直近の活動として、9/3-4 に日本鉄鋼協会高温物性値フォーラムとの共催で分科会が開かれる旨の説明があった。

断熱材の熱物性計測と評価

代理として上利会長より、資料 18-2-7-2 に基づいて、活動計画について報告があった。

先進材料の熱物性と宇宙システムデザイン

長野理事より資料 18-2-7-3 に基づいて活動報告があった。2017 年度で活動は一旦終了した。活動報告をまとめていく。2018 年度は新しい研究会として活動を引き継いでいく。

ふく射性質とその放射制御に関する研究会

宮崎 40 年記念事業担当より、資料 18-2-7-4 に基づいて、2017 年度の活動について報告された。2 回の勉強会と講演会が開催されたこと、熱物性シンポジウムで OS が企画された事が説明された。熱物性シンポジウムの日付を修正する。

(7) 事務局報告……………資料番号:18-2-8-1~3

森川事務局担当副会長より、資料 18-2-8-1~3 に基づいて、協賛関係、会員異動、会費収納、について報告がなされた。協賛については、計 7 件の依頼があり受諾した旨の説明があった。会員数は 406 名（平成 30 年 4 月 17 日現在）である。総数が 500 名以上となるようにご尽力をお願いしたい。

(8) その他

- ・ 山田前会長よりご挨拶があった。小原前事務局担当副会長および森川事務局担当副会長に対するお礼の言葉があった。
- ・ 森川副会長より、理事会で挙げられた懸案事項について説明があり、下のような意見交換があった。
○シンポジウム講演は学会員に限るとの制約を設けることが必要か。会員増強と広報の方法も併せて議論していきたい。

公益法人なので制約は設けない。

会員になることのメリットをどの程度与えられるのかを検討する必要がある。現状では、学会誌の送付とデータベース利用である。

昨年のシンポジウムでは、発表者に対してのみ会員資格を必要としていた。

自動車技術会・冷凍空調学会は法人会員がいても個人会員も多い。

業界横断型の学会なので、このくらいの規模でいい。

企業から見たときの熱物性学会について、パナソニックの評議員よりご説明があった。

以上